

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	中尾 友彰
主な担当科目	アートマネジメント概論①,アートマネジメント概論②,インターンシップ①②,音楽活動研究①,音楽活動研究②,音楽活動研究③④,音楽芸術運営特別演習 ①,音楽芸術環境研究Ⅰ,企画制作演習Ⅰ,企画制作演習ⅡⅢ,芸術運営演習ⅢC,芸術運営実習,卒業研究Ⅰ,卒業論文_アートマネジメント
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	実務家教員として、20年以上におよぶ劇場職員としての経験や専門的知見を活かし、実践的かつ充実した講義内容の提供を目指す。例えば「アートマネジメント概論」においては、芸術文化を取り巻く法律の内容や意義について、実務と関連付けて提示を行い、学生の実践的理解を深めることを重視する。さらに「音楽活動研究」では、アウトリーチにおけるプログラム開発の研究者として最新の手法を授業に組み込み、実践的なスキル向上を支援することで、学生の主体的な学びを促進する。
2024年の教育に関する自己評価	アートマネジメント実践における最新の知見を授業に取り入れ、学生の意欲を引き出す授業運営を心掛けた。また昨年は、劇場業界の話について偏りがちであったが、他の先生方のお力もお借りすることにより、ポップス業界のマネジメントについても授業内容に加え、学生の幅広い興味関心に応えられるよう工夫した。さらには、2024年9月に新潟大学大学院修士課程を修了し、そこで重点的に学修した最新のアート・マーケティングの手法についても授業で取り入れるよう努めた。
2024年のFD活動に関する自己評価	9月の第2回FD研修会は、静岡県内の高校において模擬授業の講師を務めることとなり欠席し、事後に動画で視聴した。新たな学園の中・長期計画に関する副理事長のご講話や、教職員と学生がハッピーに学び合うためのコミュニケーションに関する研修であったが、学びが多く、ぜひ会場で聴きたい内容であった。学内組織FD研修会では、研修テーマを踏まえつつ、元実務家の視点も交えながら先生方と積極的に意見交換を行った。
授業改善のために取り入れた研修内容	FD研修会での内容を参考に、多様な背景を持つ学生が安心してかつ効果的に学べる環境を構築できるよう授業において配慮した。基礎ゼミFD研修会では、個別クラスの授業についてそれぞれの教員の立場から意見が出されて、今後の授業運営を考える上で参考になった。アートマネジメント学内組織FD研修会では、留学生への接し方や授業実施時の留意点等についての意見交換を行い、授業運営に活用した。

2024 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3567 教員名:中尾 友彰

1)アンケート結果に対する所見

「アートマネジメント概論①」の総合満足度は、「そう思う」が 91.4%、「少し思う」が 8.6%で、合計 100%であり、一定の評価は得ていると考える。昨年度の授業アンケートにおいて「具体的事例は劇場・音楽堂のことだけでなく、ポップス業界等の事例も入れて欲しい」という要望があり、新たに高野修平先生に着任いただき、音楽ビジネス業界のマーケティングについて 3 回講義をいただいたことも学生の満足度向上に繋がったと分析している。

2)要望への対応・改善方策

「履修人数に対しての教室が狭い」という要望があった。次年度からは舞台スタッフコースの必修科目ではなくなるため教室問題は若干改善され则认为るが、なお履修者が多い場合には教室変更を検討したい。また「パワーポイントのスライドのページをめくるスピードが速い」という指摘もあったため、改善したい。

3)今後の課題

履修人数が多く、さらには知識・情報の伝達が主体の講義であるため、どのように学生とコミュニケーションを図りながら授業を進めるかは、引き続き大きな課題である。ポータルサイトの「クリッカー機能」等も活用しながら、学生との双方向での授業を心掛けていきたい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3567 教員名:中尾 友彰

【アートマネジメント概論②／芸術運営演習C／音楽芸術環境研究Ⅰ】

1)アンケート結果に対する所見

「アートマネジメント概論②」の総合満足度は、「そう思う」が96.2%、「少し思う」が3.8%であり、合計100%であった。一定の評価は得ていると考える。各項目も総じて平均より高いが、一方で「Q7.この授業1回(1コマ)あたりの授業時間外の学修時間(予習、復習、課題など)の平均」の数値が、全体平均よりも若干低いことが気になった。毎回授業の最後に感想と質疑の提出を課し、次回授業の冒頭で必ず回答するようにしていることに加え、授業中にも UNIPA のクリッカー機能を用いて課題に取り組む時間を設け、さらにはコンサートの企画立案の課題も出したが、他にも予習・復習に役立つような課題等について検討する必要があると感じた。

「芸術運営演習C」(3年生ゼミ)の総合満足度は、「そう思う」が100%を占めており、かつ Q8 を除いてすべての問に関して「4.00」の評価であった。少人数のゼミだからこそ、きめ細やかな指導が可能となり、履修者が学修を深めた結果ではないか。

大学院修士課程の「音楽芸術環境研究Ⅰ」についても、総合満足度の「そう思う」が100%となっており、こちらも評価を得ていると考える。しかしながら、留学生が多い授業であるため、より分かりやすい教材(パワーポイント)の開発など、さらなる改良を重ねたい。

2)要望への対応・改善方策

「アートマネジメント概論②」「音楽芸術環境研究Ⅰ」共に、自由記述欄において、学生からの要望は特になかった。「芸術運営演習C」は火曜日1限の開講であるため「もう少し遅い時間が良い」との要望が寄せられたが、改善することが難しい状況にある。「芸術運営演習C」に関しては、履修者が興味のあることや就職活動での面接を想定したプレゼンを繰り返す授業展開を行った。今後も社会において即戦力として活躍できるよう、プレゼン能力の向上について指導を強化したい。

3)今後の課題

学生と教員、もしくは学生同士のディスカッションの時間を設けるようにしていきたい。学生が授業を通じて学修した内容を、他者へアウトプットすることにより確実にインプットができるように、学生との双方向での授業を心掛けていきたい。「芸術運営演習C」に関しては、最近の学生があまり読書を行わないと感じていることから、学生の興味関心に応じた本を選び、輪読の時間を設けるなど工夫していきたい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3567 教員名:中尾 友彰

【芸術運営実習】

教員名:渡辺 章、吉原 潤、中尾 友彰、星野 友子、高橋 陽子

1)アンケート結果に対する所見

総合満足度は、「そう思う」が 100%であった。一定の評価は得ていると考える。各項目も総じて平均より高い。一方で「Q5.自分はこの授業に興味や関心を持って出席している」の数値が、全体平均よりも若干低いことが気になった。オペラ、バレエ、クラシックからポピュラーまで様々な公演の実習を取り揃えている分、学生各々で興味・関心の低いジャンルの公演がどうしてもあるのかもしれない。

2)要望への対応・改善方策

自由記述欄において、学生からの要望は特になかった。引き続き、学生がプロデューサーとして社会に進出した際に、現場で求められる基本的なマナーやホスピタリティの実践力を備えられるよう、より実践的な学びの場を整備していく必要がある。

3)今後の課題

実際の公演やイベントでのレセプションист体験を充実させるとともに、事前にその意義や役割を深く理解するための講義的要素を強化する。また、現場経験を振り返る機会として、実習後のふりかえりやグループディスカッションの時間を確保し、他者の対応や工夫からも学べる環境づくりに努める。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3567 教員名:中尾 友彰

【音楽活動研究①②】

教員名:渡辺 章、仁科 岡彦、池田 雅明、服部 孝也、浦 丈彦、尾崎 有飛、中村 佳子、彦坂 眞一郎、二俣 泉、藤田 真頼、中尾 友彰

1)アンケート結果に対する所見

総合満足度は、「そう思う」が 88%、「少し思う」が 8%、合計すると 96%であり、一定の評価は得ていると考える。音楽活動研究①②については、全 15 回の前半に行われる座学で得られた知見をもとに、後半の授業では実際に開催する親子向けクリスマス・コンサートの企画制作を行った。また履修者の中でオーディションに合格した学生は、アウトリーチのプログラム開発を行った上で、実際に小学校や高齢者施設へ出向いた。こうした授業展開により、音楽の持つ力を履修者が実感できた成果ではないか。

2)要望への対応・改善方策

「前半の実践例の授業は間延びしている感が否めなかった。1回の授業で2ジャンル紹介したほうがよいと思う」との要望があった。しかしながら、本授業ではアウトリーチの多様性を丁寧に理解することを目的としており、それぞれのジャンルや実践事例が対象とする地域や年齢層、実施目的に応じて異なるアプローチを取っている。そのため、1回の授業で複数ジャンルを取り上げてしまうと、かえって学生の理解が浅くなり、各アウトリーチの意義や工夫点を十分に掘り下げることが難しくなると考えている。

今後も学生の理解度や授業のテンポ感に配慮しつつ、必要に応じて進行の工夫(資料の見せ方やディスカッションの時間配分など)を行い、学修の充実を図っていきたい。要望には真摯に耳を傾けながらも、教育的な意図を踏まえた授業構成を維持していく方針である。

3)今後の課題

それぞれの専門性を活かしつつ、音楽を通じた自己表現力、プロデュース力、そしてコミュニケーション能力の修得ができるよう指導していきたい。そのためには、一カ所でも多くアウトリーチの機会を増やせるよう努めたい。

以 上